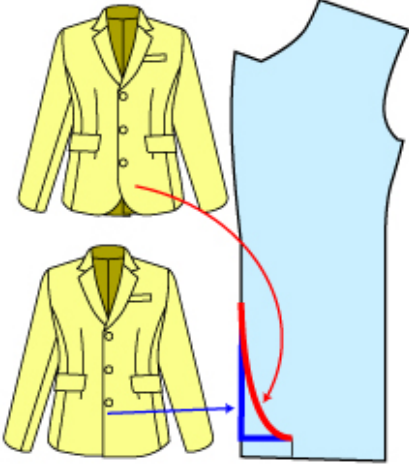
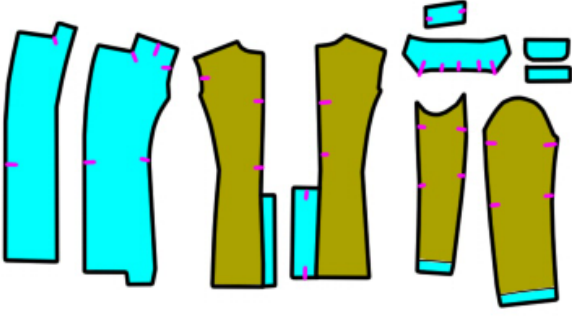

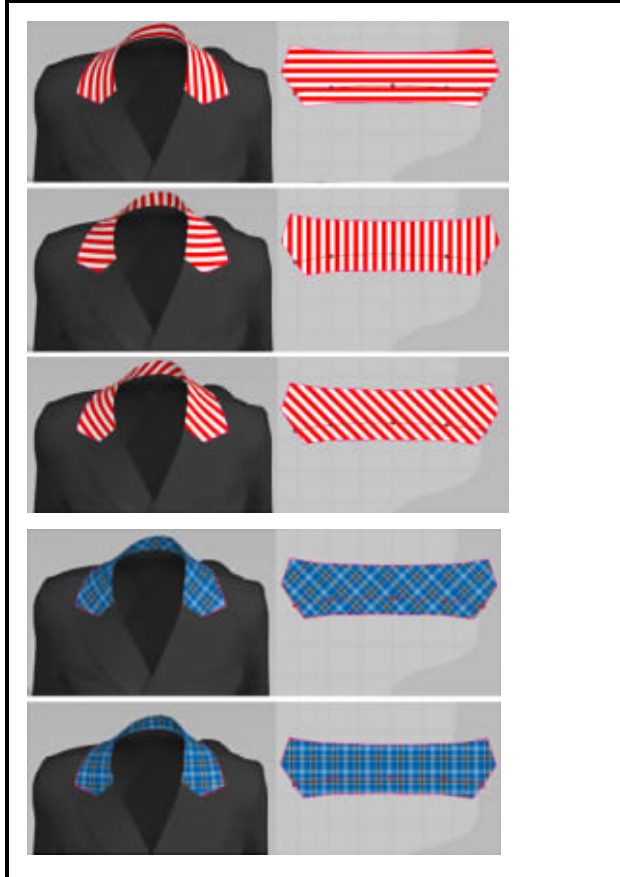
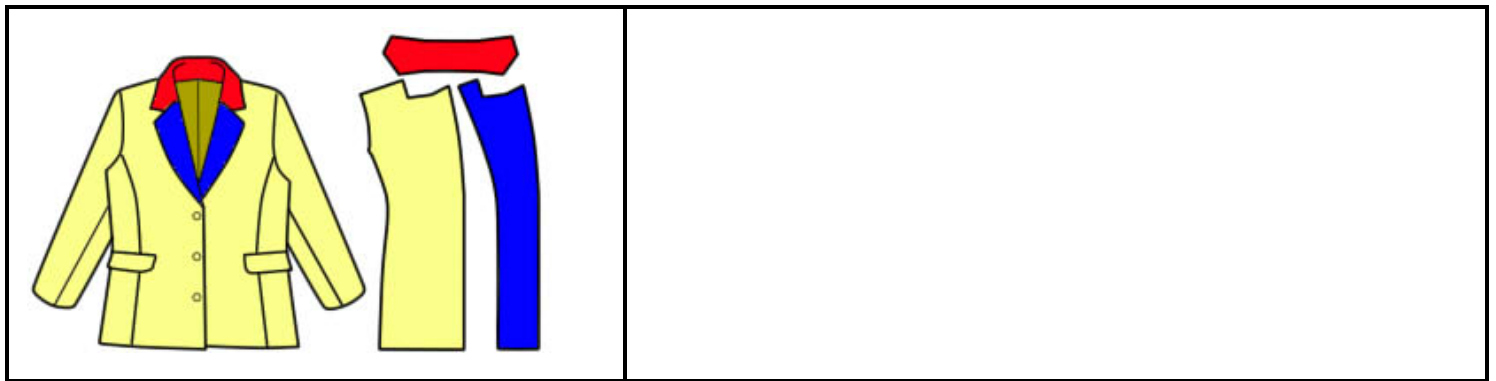
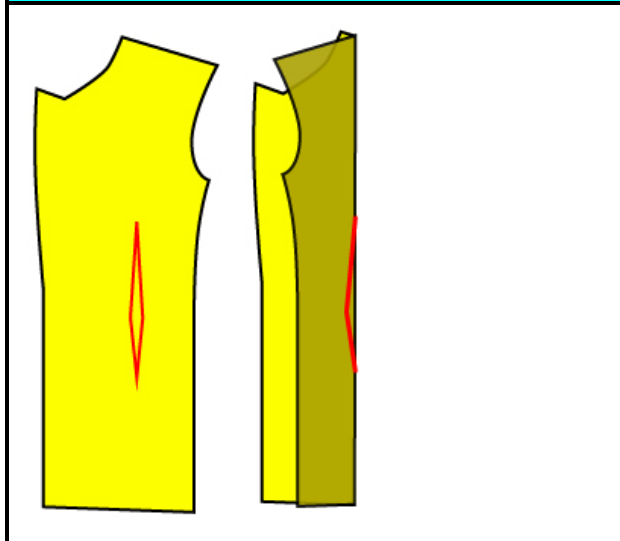

	<p>型紙のすその複数の線について。  選ぶすそによって丈の長さを変えることができます。  実際に型紙を体にあてて鏡などで確認して作りたい長さを決めてください</p>
	<p>前中心の線は選ぶ線によって前のデザインを変更できます。</p>
	<p>型紙で指定された部分の生地の上に接着芯を付けてください。  型紙についている縫い代の印を忘れずに写してください。  くわしくは縫う前の下準備にまとめているので見てくださいね  ■表 ■裏 ■接着芯</p>
	<p>ジャケットのえりと見返しの関係が分からないらしいので色分けしてみました。  テーラードジャケットの特徴的なえりは折り返して作られているので、実は青色の部分は見返しなのです。  えりや折り返しの部分だけ変えたい場合はえりで見返しの部分だけ色を変えればよいですよ</p>

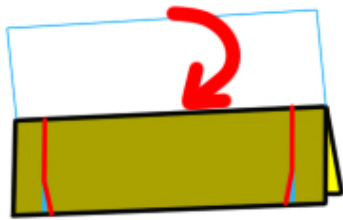


えりの模様の方角による見え方  
 ストライプや柄、毛並みのある生地をイメージどおりに出したいとき。  
 どの向きに型紙を置いて取るかで見え方が違ってきます。  
 線が横方向になるように切ると着たときは縦に線が出ます。  
 縦に線が見えるように切ると、着たときは横に線が出ます。  
 おおよそ90度の角度で出るように現れます  
 (形によって微妙に変わります)

ダーツと胸の飾りポケット



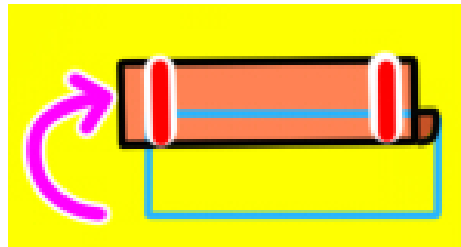
 ダーツ(立体にするためのつまみ)を縫ってください。  
 ひし形の印のところを上下を基準に縦に折ってください。  
 赤い線のところを縫ってください。



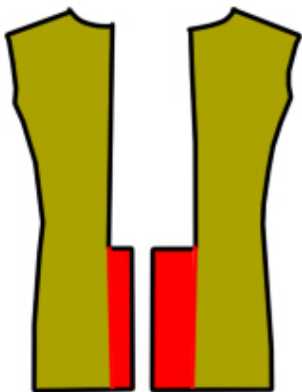
飾りの胸ポケットを作ってください。  
裏側へ半分に折ってください。  
両端を縫う、この時下側の縫い代部分にかかる縫い  
目は少し内側に向けて縫ってください。  
表返し、アイロンで型をつけてください。



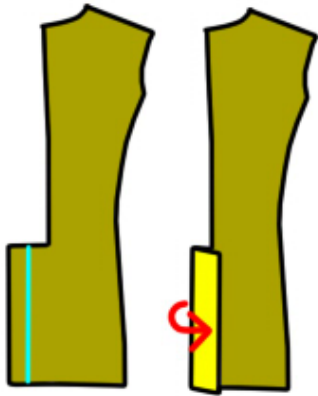
飾りの胸ポケットは、上下逆に置いて縫ってください。  
ポケットを正しい位置におこしてポケットの両脇を縫っ  
てください。



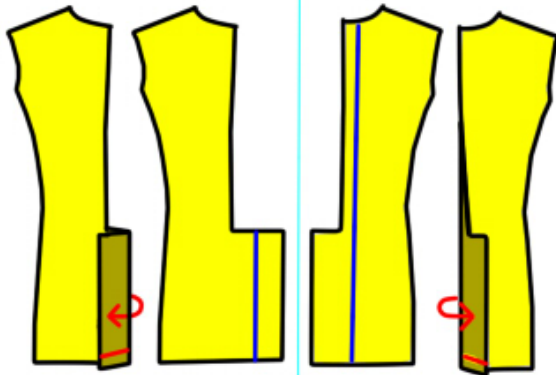
### ベンツ(すそのスリット)



後中心とスリットを縫ってください。  
このスリットをベンツと呼びます。

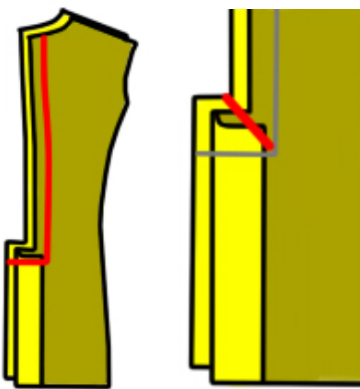


持ち出しの広い方の後身頃(胴体)の持ち出しを真中の印で裏へ折りアイロンで型をつけてください。



←持ち出しが広い      持ち出しが狭い→

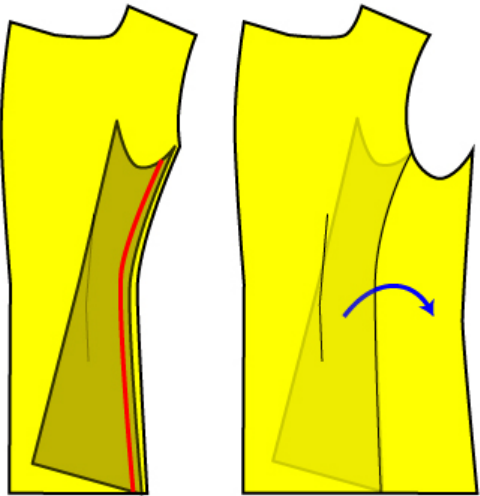
持ち出しの幅の広い方は持ち出しの真中の折り目と逆に折ってください。  
狭い方は、後ろ中心の縫い代線の延長線上を折ってください。  
持ち出しのすその縫い代を縫ってください。  
折ったところをひっくり返す。



持ち出しが狭いほうは折らない。

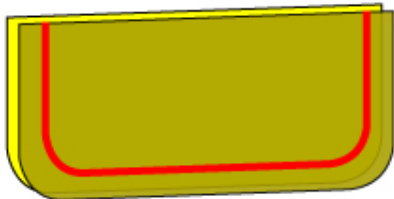
後見頃同士を内側が表同士になるように重ねて、イラストのように後ろ中心を縫ってください。  
縫い目を切らないように、縫い目の1mm手前まで角に切込みを入れてください  
これで後のスリットが完成。

前脇



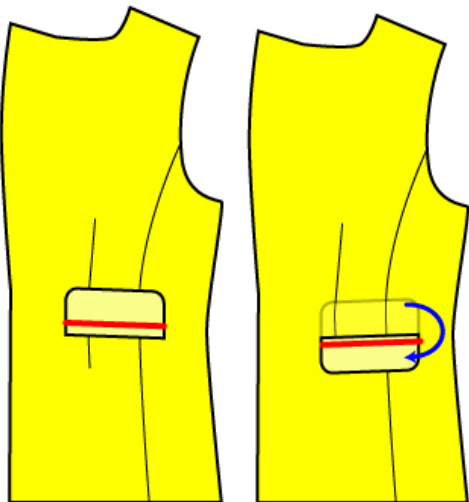
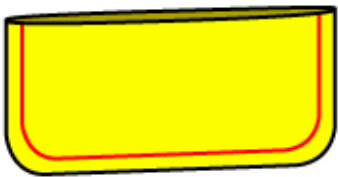
前身頃の中心と脇のパーツを表同士が内側になるように重ねて縫ってください。  
縫い代は脇側に折ってください。

## 飾りポケット



### 腰のポケット

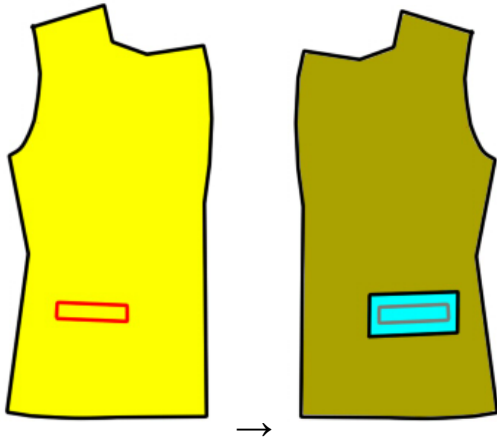
雨ぶたを縫ってください。  
2枚重ねた布が内側同士が表になるように重ね(これを中表といいます)縫い代を縫ってください。  
ひっくり返すために上側は縫いません。



### 飾りポケットにする場合

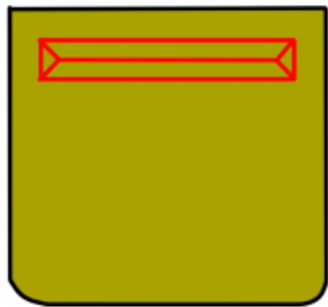
雨ぶたを表に返して、アイロンで形を整ってください。  
端から5mmの所を縫ってください。  
ポケットを作らず、飾りで雨ぶたを付ける場合はこのまま身頃に重ね、上側をミシンで縫ってください。

ポケットを作りたい場合    ポケットをつけない場合は飛ばしてください。

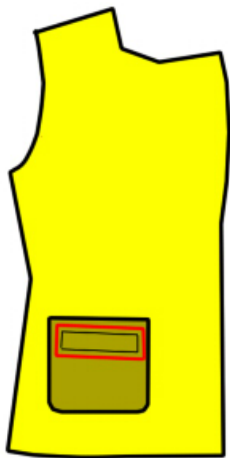


※初心者には難易度は高めです。  
ポケットを付ける位置に印を付けてください。  
ポケットの穴を開ける場所の裏に補強の為接着芯を貼ってください。

型紙についている縫い代の印を忘れずに写してください



ポケット布に型紙から図のように線を写してください。



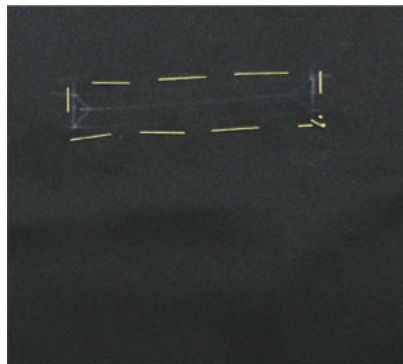
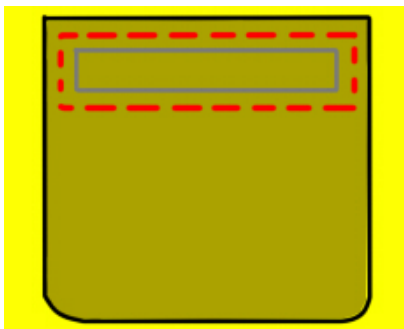
身頃に描いたポケットの印と、ポケット布の印を合わせてください。

この時身頃は表を上、ポケットは裏を上にして重ねてください。

ずれないようにしつけ糸を使って手縫いで固定してください。

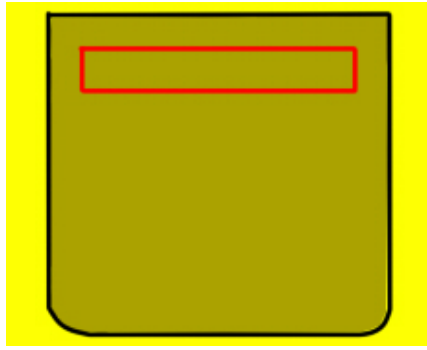
印か3~5mmくらい離れたところを縫ってください。

近くを縫うとミシンで上を縫ってしまったとき、糸を抜くのが大変になります。

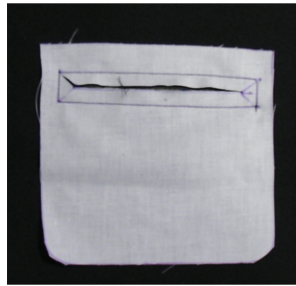
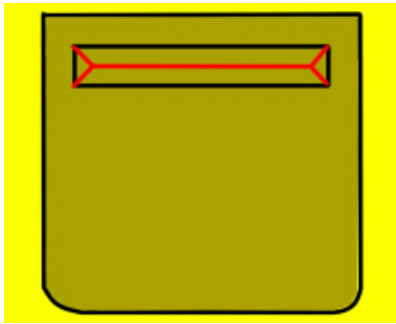


裏から見るとこんな感じ

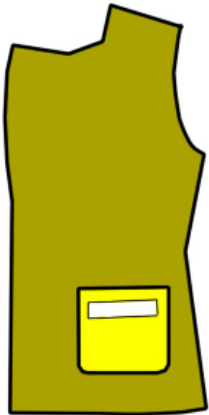




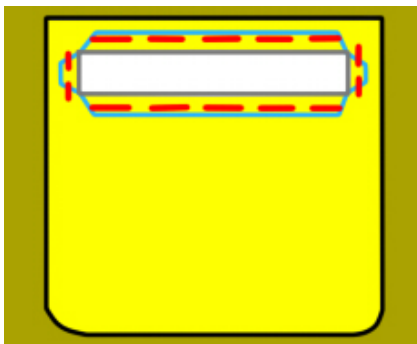
ミシンで四角の印の上を縫ってください。




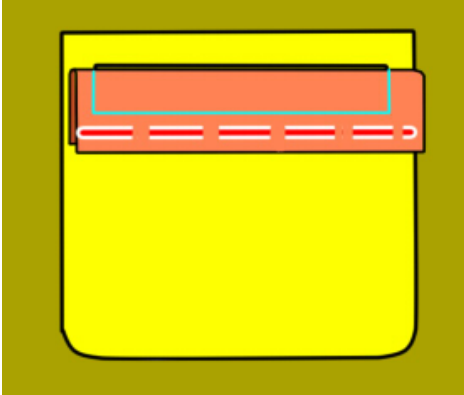

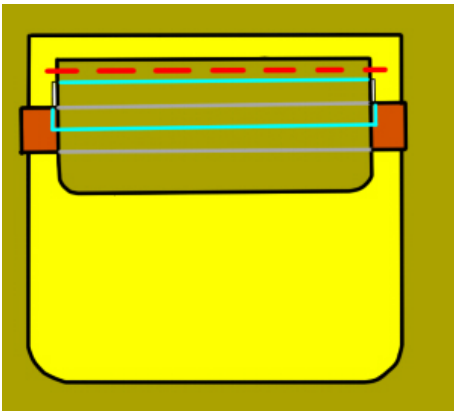
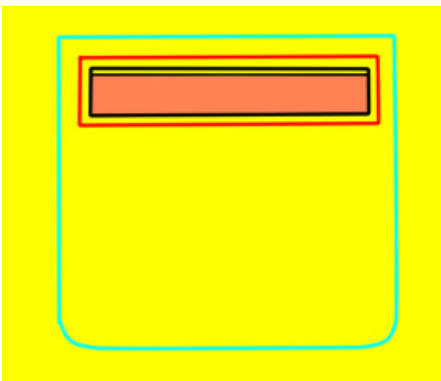
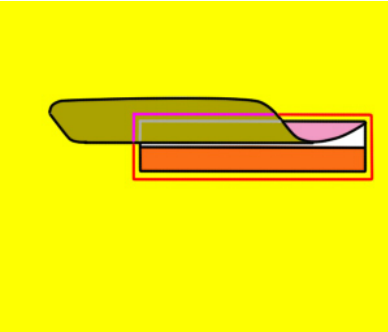
ハサミで赤の印の上を切ってください。  
この切り口からポケット布を裏へひっくり返してください。



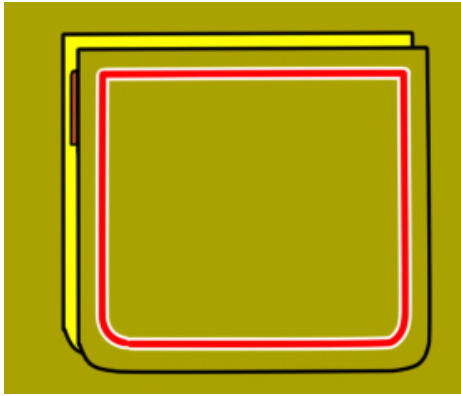
裏側へポケット布を引っ張り出したら、形を整えてピンで固定してください。



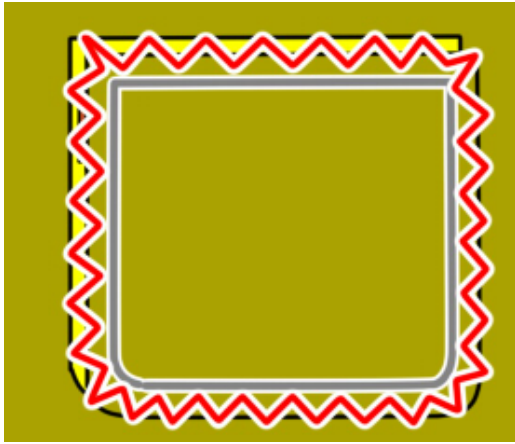
穴の端から3~5mmの所をしつけ糸で縫ってください。

	<p>たまぶち布(オレンジ色の生地)を半分に折ってください。</p>
	 <p>しつけ糸で玉ぶち布、ポケット布、表生地を一緒に縫ってください。 たまぶち布の端から5mmの所を縫ってください。</p>
	<p>雨ぶたを付ける場合は、雨ぶたを重ね、仕付け糸で端から5mmの所を固定してください。 雨ぶたの作りかたは飾りポケットのところを見てください</p>
	<p>表にひっくり返して、ポケットの穴から1~2mmの所をミシンで縫ってください。 この時点でしつけ糸は外してください。</p>  <p>雨ぶたつきの場合は、雨ぶたを表に引っ張り出して、余計な所を縫い込まないようによけて縫ってください。</p>



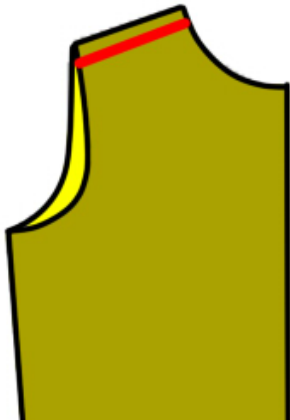


裏返して、もう一枚ポケット布を重ねてください。  
ポケット布同士の縫い代を縫ってください。



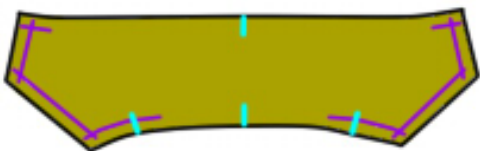
ポケット布2枚一緒にほつれ止めをしてください。

## 肩

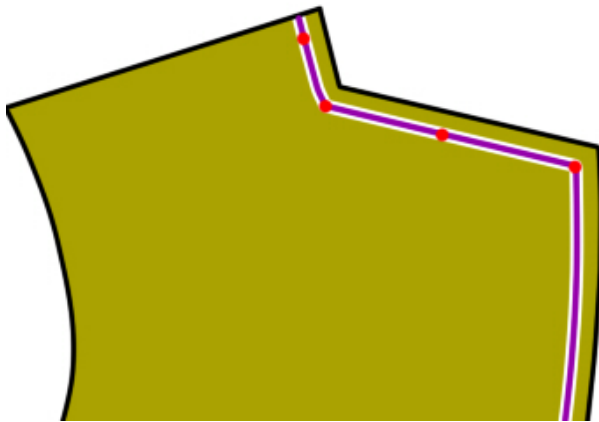


肩を縫ってください。

## えり



接着芯をつけたらえりに印を入れてください。  
消えるチャコペンや、表に響かないペンなどで型紙を重ね、上の図であけた穴の所に印をつけます。  
裏側に1cmの幅で縫い代の線を引いておくとあわせやすいです



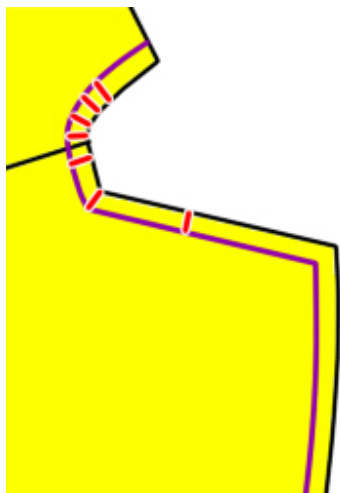
身頃のえりの所にも印を付けておくとより縫いやすくなります。

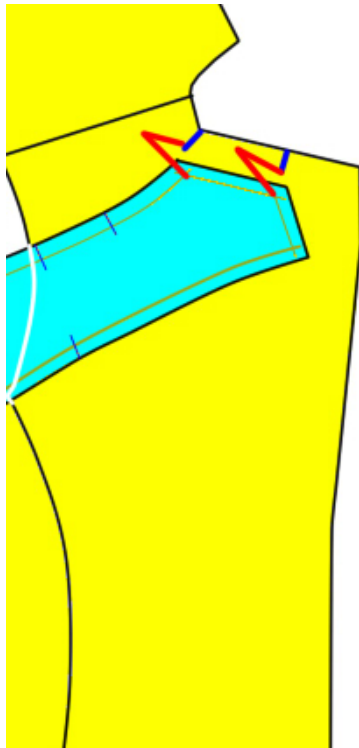


そのままたとえりぐりを縫うとき引きつってしまいますので、前身頃の縫い代に縫い目を切らないよう気持ち1ミリ残す感じで切込みを入れてください。切込みを入れる場所は後ろのえり首のカーブのところ前身頃と見返しの型紙に印のあるところの縫い代に切込みを入れてください。

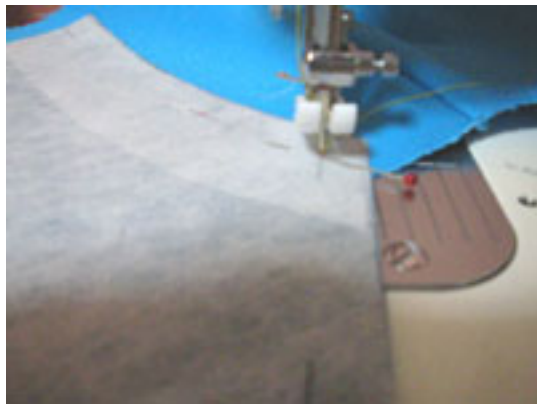
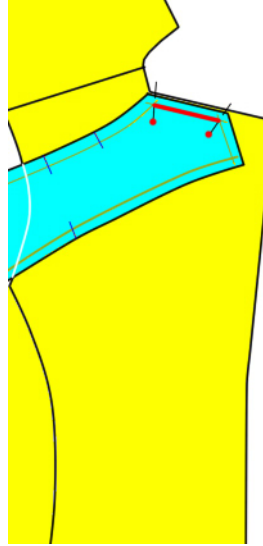
— or ○ — (洋裁工房の場合この印)  
(8~9mm)

○ — この模様は切込みではなく点で印を入れてください。





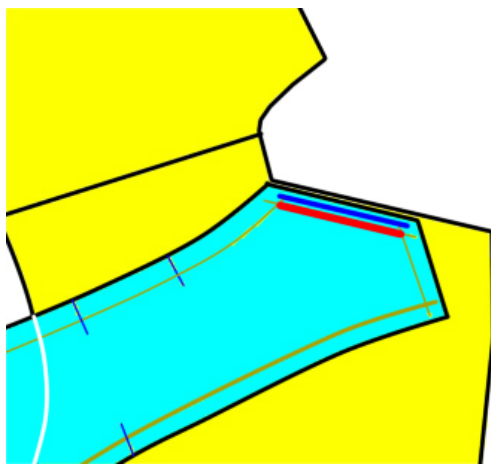
えりの印と、身頃の位置があうように、真上からまっすぐ針を刺し、固定してください。

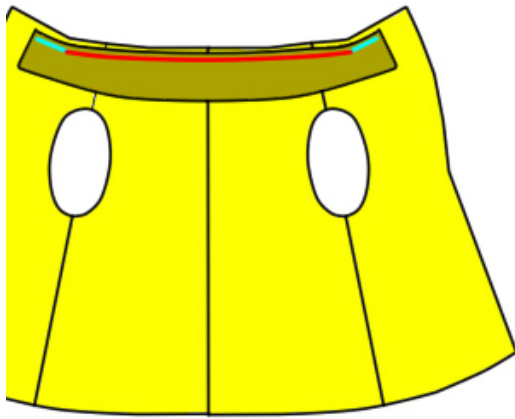


縫い始めは手動で、丁度交点に針が落ちるようにミシン針をおろして縫い始めてください。

縫い終わりも縫いすぎないように注意して、スピードを落とすか、手動でぴったり交点まで縫ってください。

縫い慣れていない人は、ミシンで縫う出来上がり線より2~3mm離れた所(青い線)を手縫いで縫っておくと、縫いやすいです。





1)



2)



1) 首の横から後ろを縫います  
(赤い線の部分)

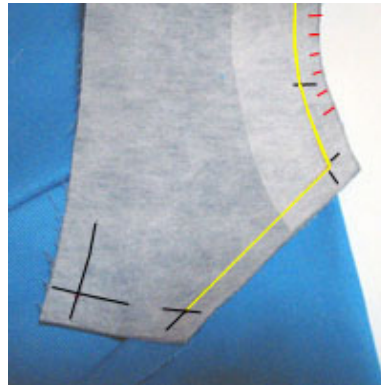
ここも、ミシンで縫うラインより2  
~3mm離れた所をしつけ糸で  
手縫いしてください。

それからミシンで縫うと綺麗に  
縫いやすいですよ。

出来るだけずれたりしないように角がきちっと合うよう  
に縫ってください。

これが重なったりずれたりすると表から見たとき引き  
つたように見えたりします。


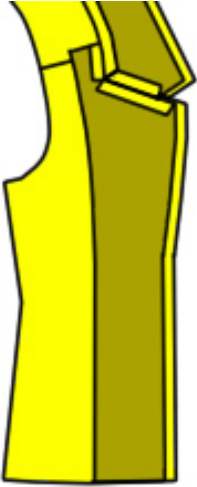
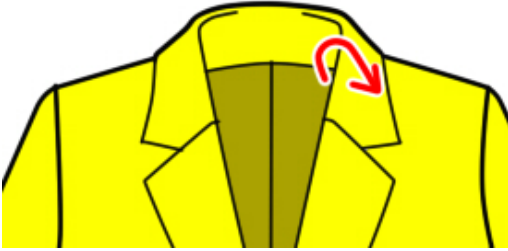
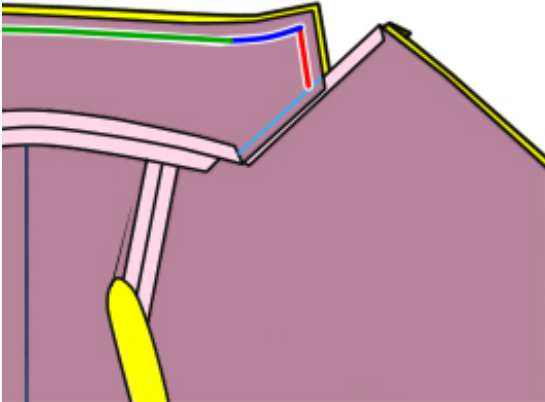

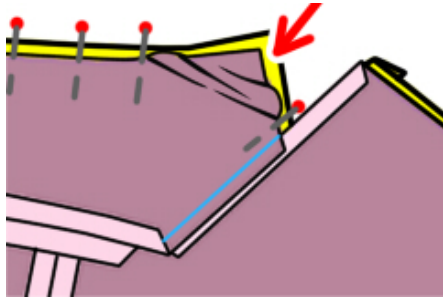
2) 余分な生地を縫いこんだりしないように、図のよう  
に生地をたたんで、出来るだけまっすぐな状態にして  
縫うと綺麗に縫えます。

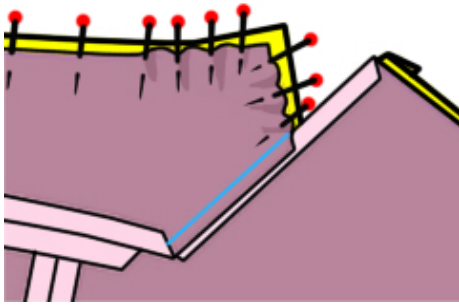


カーブの所は引きつったりゴロゴロしやすいので、ぬ  
いしろに浅く切込みをいくつか入れておくと落ち着きま  
す。

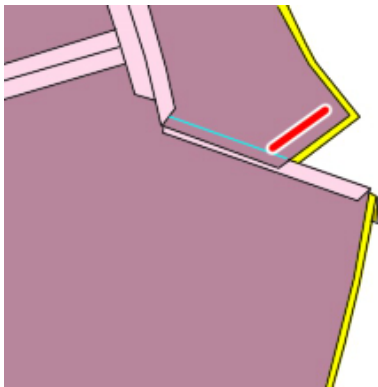


アイロンで縫い代を左右に折ってください。

	<p>見返しにも同様にえりをつけてください。 ※見返しは前だけです。</p>
	<p>表同士が内側になるように身頃(胴体)と見返しを重ねてください。</p>
	<p>えりは図のように折り返すので、布の厚み分表と裏のえりではずれが出ます。 そのえりのずれの調整をします。</p>
	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="margin-right: 20px;">  </div> <div> <p>えりにピンを刺すとき緑の区間は均等にさしてください。</p>  </div> </div> <p>赤と青の区間は見返し側のえりを2mmほど内側にずらして縫ってください。</p>



しわにならないようにずらした分を均等に分散させて、細かくピンで固定してください。  
ずらしたぶん生地にダブつきが出ますが、それで正解です。  
ずれないようにしつけ糸でミシンで縫う場所より2~3mm離れたところを縫ってください。  
しつけをしたらピンははずしてください。

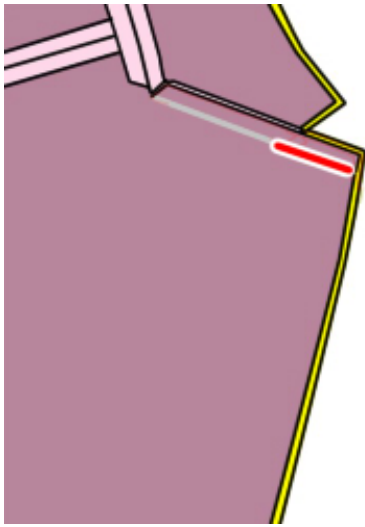


えりの縫い代を縫い込まないようによけて、えりの両端を縫ってください。  
縫うときは緩みを入れたほう(見返し側)のえりを下にして縫うと綺麗に縫いやすいです。

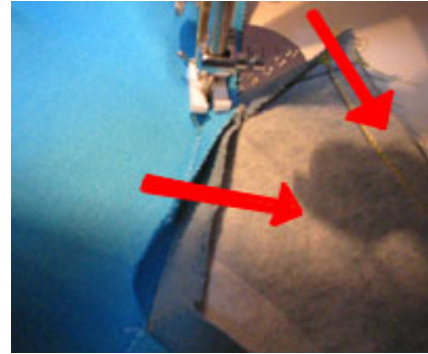


えりの上を縫ってください。

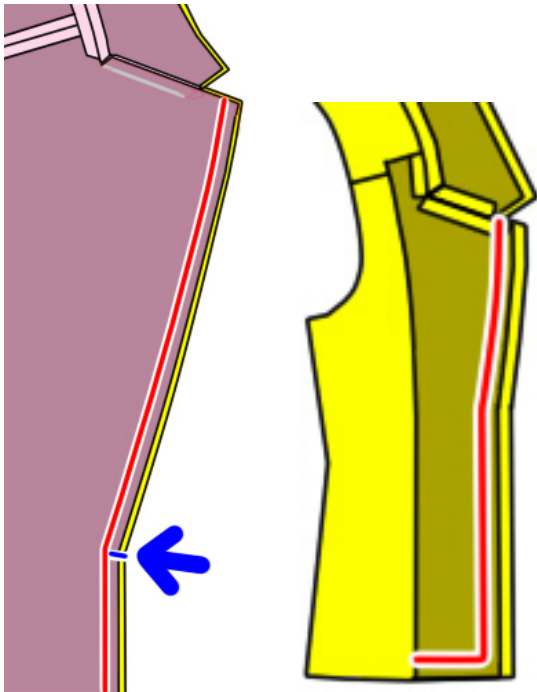




見返しの先からえりの境目までを縫ってください。  
そして、最初に衿を縫った線と、合体するように縫ってください。

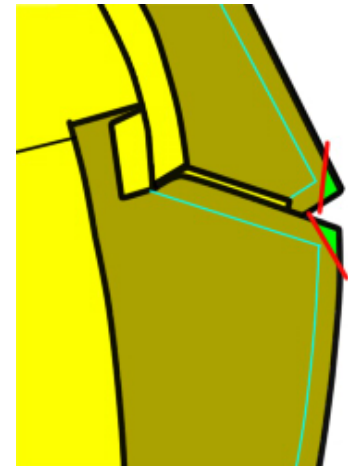


この時もえりの縫い代を縫いこまないように注意して、縫い代をよけておきましょう。



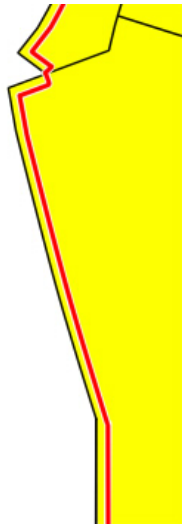
前中心を縫ってください。  
表替えした時、角が引きつりますので、図の青い部分に縫い糸を切らない程度切込みを入れてください。

表がえす時に先が厚くならないように、縫い目から2mm離れた角を切り落としてください。

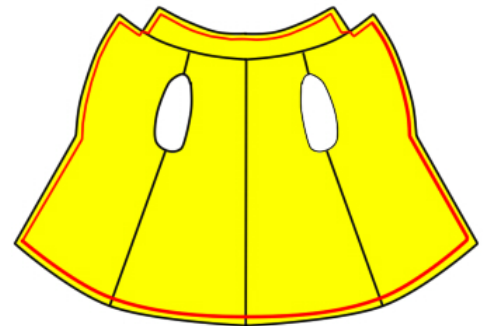




表側にかえしてください。



端から5mmの所をミシンで縫ってください。  
(表から見える所を縫う事をステッチをかけると言います。)



えりを閉じてください。

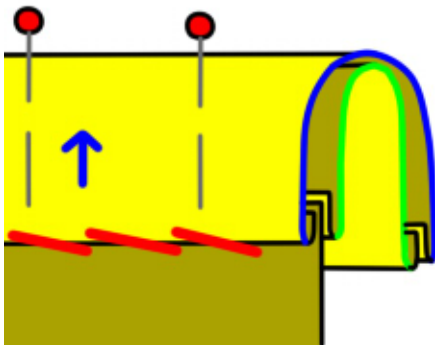
えりは半分折り返しますから、厚み分表に見えるえりと、裏に隠れるえりの長さが変わってきます。

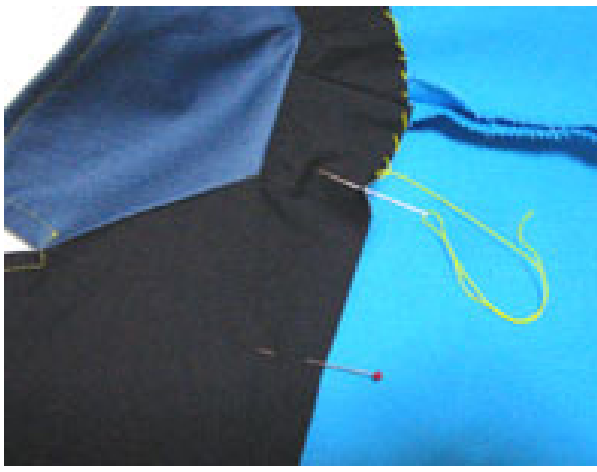
そのため型紙通りにえりのすそを折って中に入ると引きつってしまうのです。

なので、自然なカーブになるように出来上が

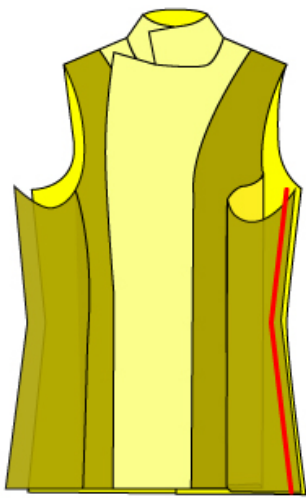
り通りにえりを折って、ピンで固定します。

そして、えりのすそを折って内側に入れ、手縫いで縫って行くと綺麗に仕上がります

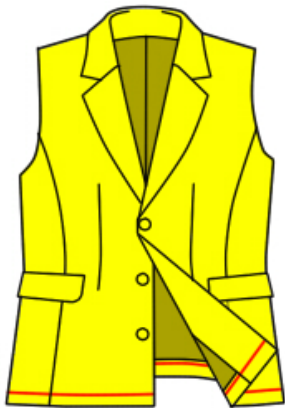




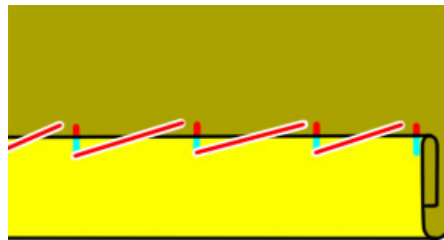
見返しもえりと同様折り返しがありますから、いったん折って、カーブのための余裕を入れてピンをシワが入らないように止めます。  
手縫いでまつり縫いをして見返しを固定してください。



後身頃と脇の後ろ側を縫ってください

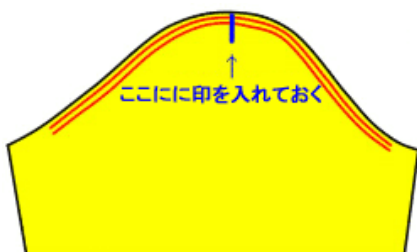


すそ  
すその縫い代を2cm裏に折ってください。  
1.5cmのところを縫ってください。  
ミシンで一直線に縫ってもいいですが、手縫いでまつってもよいです。



まつり縫い

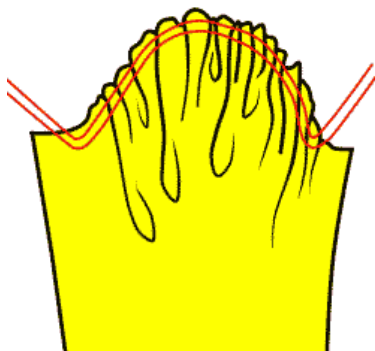
そでやまの拡大図↓



そで山にはそでを立体にする為に余裕が入られています。

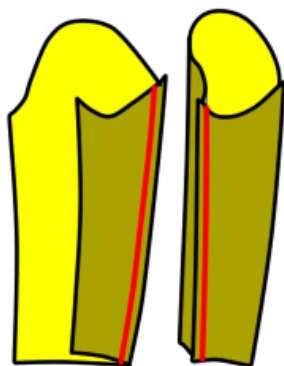
ここでギャザーを寄せておかなければ、そのままつけるとあまってしまうのです。

ギャザーの縫い方は縫い方の下準備の用紙を見てください



そして裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せます。

(これを一度覚えておくとスカートやいろいろな事に応用がきくので、是非チャレンジしてみましょう！)

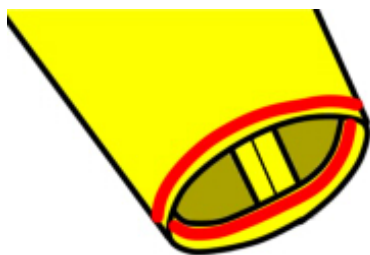


ミシンの上の糸調整を元に戻してください。

2枚のそでを表側が中になるように重ね(中表という)両脇を縫ってください。

同じように裏地も縫ってください。

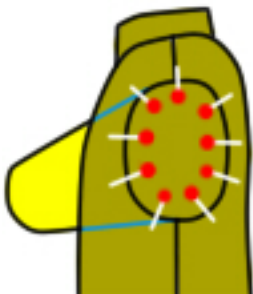
アイロンでそで口を出来上がり線で折ってください。



アイロンで縫い代を折り縫ってください。

縫い代より5mm短い幅の所を縫ってください。





見頃(胴部分)は裏返して、そでは表にひっくり返してください。

見頃の中にそでを入れてください。

肩と、脇を最初にあわせてまち針でとめてください。

縫う場所より2~3ミリ横を仕付け糸を使い縫っておくと、ミシンで縫う時に針を折る心配がなくていいよ!

しつけ縫いをしたらミシンでそでぐりを縫ってください。

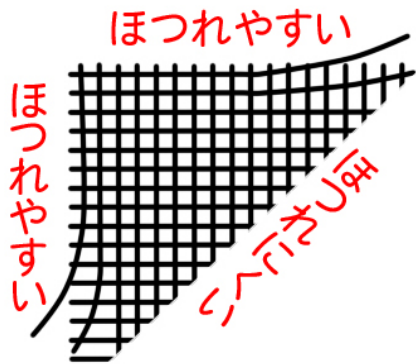
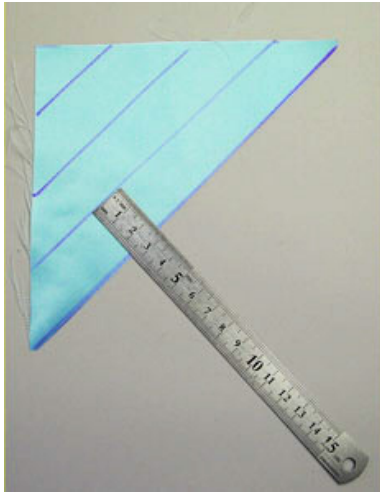
## 肩パットのつけ方



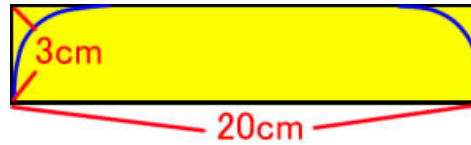
同じ型紙で作った服の肩パットの有無の比較写真を撮ってみました。

自分の作りたいシルエットに近いもので作ってください。

肩パット+芯をつけると、市販のスーツのように肩が丸く柔らかく仕上がります。



芯をつける場合は、表地と同じ生地を使います。  
布の縦横に対して45度の角度で横20cm縦3cmに切ってください



角があると表に形がひびくので、角を丸くしてください。

**ポイント**

布は縦横はほつれやすいのですが、斜め方向はほつれにくいのでこの性質を使えばホツレ止め不要な芯になるのです

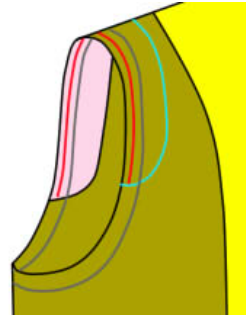
そで山に角を落としたほうがそで口側に向くように芯をつけてください。



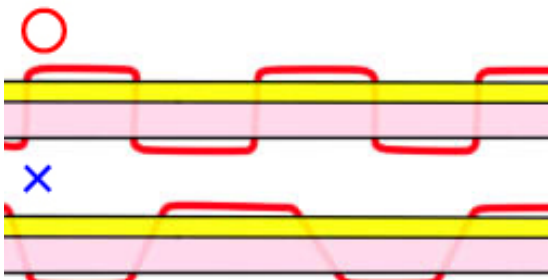




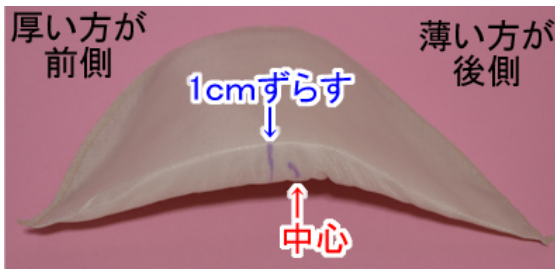
服を裏返した状態でそでの中に芯をつけてください。



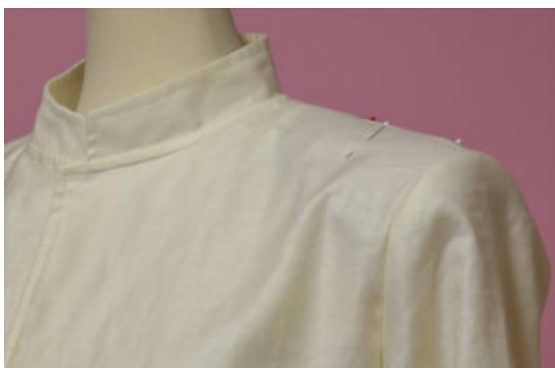
縫う場所は縫い代より外側を縫ってください。



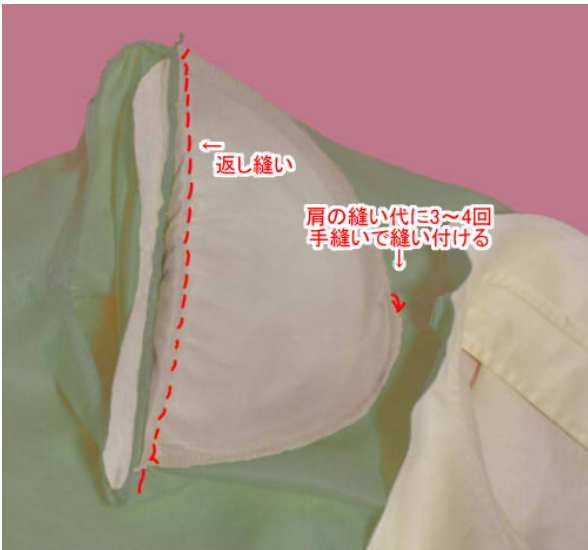
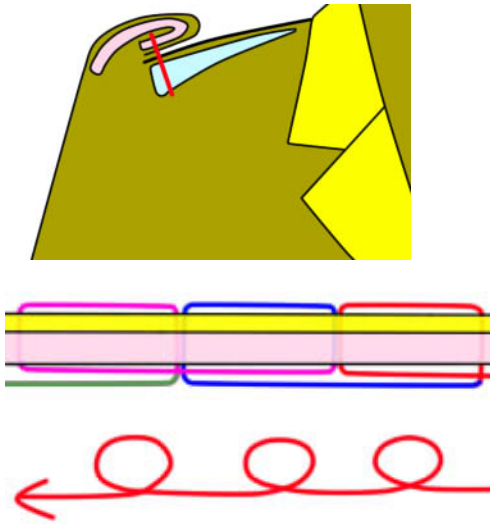

縫い方は手縫いでどんな縫い方でも構いません。  
ただ、出来るだけ布に対して垂直になるようにして縫ってください。



肩パットは物にもよりますが左右対称ではないものは厚みがある方が前、薄い方が後です。  
肩山も中央ではないので、中心より1cm前側に印をつけて、そこを肩の縫い代にあわせてください。



トルソーをお持ちであればトルソーに着せて、しわが入らないようにピンでかたパットの位置を固定してください。  
ポイントは肩パットを出来上がり線より5mmはみ出させる事です。  
これでそでが肩パットの上ののって丸くなります

	 <p>手縫いで返し縫いをしてそでぐりの縫い代に肩パットを縫い付けて下さい。 反対側は手縫いで3~4回肩の縫い代に縫い付けてください。</p>
	<p>ミシンのボタンホールの機能の使い方がわからないという場合は、ボタンを飾りにして、スナップボタンで固定するという方法もあります お好みでそでなどにもボタンをつけてください 着た時に 右にボタン左に穴をあけると男前 左にボタン右に穴を開けると女前になります</p>

いるもの

表生地、接着芯、ボタン、肩パット糸

オススメの生地

普段着としてカジュアルに着るのであれば

市販の服の素材を参考に選ぶといいと思います

綿ツイルや、デニム、ツイードなどで作ってもいいと思います

コスプレの場合シワになりにくいポリエステルツイルやポリエステルギャバなどがオススメ

ギャバはハンカチなどに比べ薄いが綿のツイルよりは気持ち薄く張りがあります。

ツイルは織り方の名称なのでお店によって厚かったり、薄かったり異なります(ギャバもツイルの種類の一つ)

通販で買う場合は色の確認もかねてサンプルを取り寄せするのがオススメです